（1）君子儒

子、子夏に謂いて曰わく、

女、君子の儒と為れ。小人

の儒と為ること無かれ。

(2) 和して同ぜず

子曰わく、君子は和して

同ぜず。

小人は同じて和せず。

(3) 詩と礼と楽

子曰わく、詩に興り、

礼に立ち、楽(がく)に成る。

(4) 君子とは

子曰わく、命を知らざれば、

以て君子たること

無きなり。礼を知らざれば、

以て立つこと無きなり。

言を知らざれば、以て

人を知ること無きなり。

(5) 天命

子曰わく、吾十有五にして

学に志す。三十にして立つ。

四十にして惑わず。

五十にして天命を知る。

(6) 君子の徳

子対て曰わく、子、政を為すに、焉んぞ殺を用いん。子、善を欲すれば、民善ならん。君子の徳は風なり、小人の徳は草なり。風を上うれば、必らず偃す。

(7) 孔子の辞職

斉人、女楽を帰る。

季桓子これを受く。

三日朝せず。孔子行る。

(8) 為す、好む、楽しむ

子曰わく、これを知る者は

これを好む者に如かず。

これを好む者はこれを

楽しむ者に如かず。

(9) 仁を超えて

子貢曰く、如し能く博く民に施して能く衆を斉わば何如。仁と謂うべきか。

子曰く、何ぞ仁を事とせん、必ずや聖か。

(10) 求める

子曰わく、我は生まれながらにしてこれを知る者に非ず。古を好み、敏にして以てこれを求めたる者なり。

（11）道

子曰わく、朝に道を聞かば、

夕べに死すとも可なり。

（12）心の欲するまま

六十にして耳順がう。

七十にして心の欲する所

に従って矩を踰えず。

(13) 自己限定

冉求曰わく、子の道を説ば

ざるに非ず。力足らざれば

なり。子曰わく、力足らざ

る者は中道にして廢す。

今女は画れり。